

ランディ・スタフォード 証 2003年2月

2, 3年前に、私は、父の義理の親戚に当たる人のE-メールアドレスを知らされました。その親戚とは、私が5歳の時以来会っていませんでした。私は彼女にメールし、彼女は、「主を褒め称えます！あなたの40年の人生で何が起こってきたのですか？」と返信して来ました。私は、彼女がクリスチャンであると知り、ぞくぞくしました。そして、イエスにある私の歩みにあつて初めて、私は座ってペンを取り、「証」を書きました。その後、2, 3の事を、よりはっきりとさせる為に変え、また、最近起こった事柄もアップデートしました。すべての事柄についての私の記憶は正確ではないかもしれませんが、それに近いものです。順子は、私の校正係をし、私が飾ったり、誇張したりしようとする事から守り、正直に保ってくれました。

この証を読み上げる前に誓います。——これから話す事は事実起こった事であつて、私が本来欲していた事ではありません。しかしながら、イエスによって捕らえられて以来、私はただ彼を欲しくなりました。私はしるしや不思議を求めた事はありませんし、いまだに求めています。しかし、主が今日でも多くの賜物と、務め、そして奇蹟を彼の霊によって注いでおられる事を私は受け入れています。それらは、主の御旨によってであり、私達がそれらを欲するからではありません。多くの信者が主から迷い出、ついには偽りの預言者と偽りの賜物に仕えるようになってしまう原因はここにある、と私は信じています。私達の教会では、多くの賜物を経験し、主の御手が私達に触れる事を見てきています。しかし、私達は祝福を名づけたり、主張したり、要求したりはしません。私達は信じ、仕え、分かち合い、そして待ちます。すると主はいつも誠実に、私達が願う以上の事をして下さいます。どうかこの証を、どなたとでも遠慮なく分かち合ってください。この話について、私は恥ずかしくありませんし、誇ってもいません(と願い、祈っています)。ただ、神の民を励まし、力づけるように、とだけ願っています。

(私の証)

キリストにある友へ、

イエスの御名により、日本より愛をもって御挨拶申し上げます。

すぐにお返事を差し上げなくて、すみませんでした。学校の為にいろいろと準備がありずっと急がしかったのです。教会を牧している事の他に、私は、学校の12人の子供達の校長であり、また「天幕張り」でもあります。つまり私は、教会を興すのに私自身の財産を使いました。そして今でも私達は、完全に自分達だけで教会を支えています。(働きながら大学を出るようなものです)。私達の教会の50人の信徒は忠実に捧げていますが、我々の住宅ローン、税金、ガス、水道等の生活費は大変高いのです。ですから、私は教会の経済を補う為にどんな仕事でもします。現在は、コンピューターを造って、それをおもにクリスチャンに売っています。

ナオミ(私の上の娘)から、あなたが、私のキリストへの回心の話を知ったがっている、と聞きました。それは本当に奇蹟であり、喜んであなたと分かち合いたいと思います。あなたがどのくらいまで、バズとドリー(私の兄と姉)から聞いているのか良く分かりませんので、初めからにしましょう。——私はルイジアナに生まれましたが、父はアメリカ空軍のパイロットでしたので、この基地からあの基地へいつも引っ越していました。私の最初の定かではない記憶はインディアナのバンカーヒルの空軍基地のもので、そこにいた時に、私達はあなたを訪問したと思います。農場の事を少し覚えています。そこから私達は、カリフォルニアのマーチ空軍基地へ行き、そこで、父は退職し、シアトルでボーイングSSTプログラムのテストパイロットとしての仕事を頂きました。国会が3年後にSSTプログラムを取り下げた後、シアトルには仕事なくなり、父は日本航空に指導教官として雇われました。私はそこに(日本に)1969年に引越しました。12歳の時の事です。私は軍のDOD高校へ通い、順子に会いました。2人共、17歳でした。その後、2年間ハワイの大学へ行きましたが、私は恋人と一緒にいたくて、日本へ帰って来ました。

2年間(東京にある)上智大学へ通いましたが、あまり真剣でなかったため、一学期落としてしまい、恥ずかしい事に卒業しませんでした。順子と私は英会話学校を始め、結構成功し、1980年には結婚に至りました。この地点まで、私はキリスト教には大変反対でした。本当に何故そうだったか分かりません。私は仏教をしばらく試みましたが、「自分を無にする」事はできませんでした。空手も勉強しましたが、「超越する」事はできませんでした。哲学も勉強しましたが、哲学者、彼ら自身についても勉強したところ、ほとんどが偽善者であり、彼ら自身の「体系」によって生きる事はできなかった事が分かりました。私は遊興と罪に身を入れ、それは結構「成功」しましたが、決して満足は得ませんでした。しかしながら、私達は経済的には良くやっていて、1981年には「一旗上げる」為にアメリカへ行く事を決心しました。私達は、ミネアポリスにいる兄バズの所へ行き、そこで酒屋を開こうと計画していました。しかし、すべてはおじゃんになってしまいました。その後バズは、私達が着いた2、3ヶ月後にピッツバーグへ移りました。私達はミネアポリスで、誰も知っている人はいなかった為、彼の後についてペンシルバニア州へ行きました。この頃に、順子は具合が悪くなり始めました。私達は大した事ではないと思い、ピッツバーグのダウンタウンにある日本のステーキハウスで働き始めました。しかし順子は頸部のガンと診断され、働くのを止めなければなりません。私はガンが広がるのを抑えると言われているワクチンを彼女に投与していましたが、どんどん悪くなって行きました。彼女は特別の食事制限をしており、赤肉、酪農製品等、を取りませんでした。が、それも助けにはなりません。彼女は2、3分以上歩く事さえほとんどできませんでした。1982年の初め、彼女は同じアパートの棟に住んでいる一人の日本人の女性を紹介されました。彼女は熱心なクリスチャンであり、順子に、イエスにある信仰が彼女を癒すであろう、と言いました。私は感銘を受けませんでした。順子は教会と祈り会へ行き始めました。彼女の肉体上の健康は悪化し続けましたが、彼女は心の中に希望を見出していました。おまけに、私は仕事を失い、失業状態となりました。そして、1982年7月4日、私は独立記念日のピクニックに招かれました。私は「公園にビール」でもあるのかと思っていましたが、ショックな事に、教会のピクニックである事が分かったのです！ 私は大変怒りました。私は「リラックス」して、酔っ払いたかったし、タバコも欲しかったのです！しかし、とにかく(恵みによって！)私はそこにとどまりました。昼食の後に、小さな老年のイタリア人(牧師)が立ち上がり、説教を始めました。私はいやげがさし、立ち去りたかったのです。しかし、いくつかの言葉に私は注意をうながされ、少し耳を傾けました。私はキリスト教に反対で、罪と自分に大変恋していましたが、気が付くと、彼の話しういかなる言葉をも否定する事はできませんでした。彼が引用した聖句はほとんど覚えていませんが、私の生涯で聞いた事のあるどんなニュースよりも良い知らせを彼が説教した事を覚えています。最後に、彼は全員に頭をたれるように、そして、彼の話しした言葉を信じるならば、手を上げるように、と尋ねました。(これはセットアップされていた事だったのです！私だけが、その場で救われていない者であり、私以外の全員はその事を知っていました！)私は、およそ私の意に反して手を上げ、私が聞いた事は本当である、と認めざるを得ませんでした。また、希望と救いの言葉は、私の心の欲している事でもありました。私のその日を私の“生まれ変わりの誕生日”としています。そのピクニックの後でも、私は自分自身と罪への欲望に燃えていきり立っていました。しかし、真理が植えられ、そこから逃げる事はできませんでした。数週間私は格闘し、あわれにも私の妻に、大変辛い時を与えました。8月の終わりに、私はまだ、クリスチャンのすべてに対抗し戦っていたのですが、順子は彼女が水の洗礼を受けるつもりである事を告げ、私も彼女と一緒にしないかと尋ねました。「まさか！」と私は答えたものの、その夜に彼女を教会へ連れて行く事には同意しました。私自身、教会の中へ入った事もなかったのです！私が彼女を降ろしたところで、彼女はまた、私も来て見てくれないかと尋ねました。私はいよいよながら同意しました。(彼女は、私が自分から自主的にしてくれた、と言っています。)彼女が私に洗礼を受けたいかと尋ねた時に、私は自分自身でもショックな事に、「そうだな。でも、準備がしていない。」と口にしていました。彼女はバッグの中に、私の為の服の着替えも持ってきていると言いました。(なんて卑怯な！)礼拝がまさに始まろうとした時、私は準備をする為に着替え室へ飛び込んでいました。またしても、私の意志とは全く正反対な事に！「着替える」という事について疑問があったはずなのに、それでもまだ、全身浸水するバプテスマとは思ってもみなかったのです。私は、「これは、結構水を撒くものか、あるいは大きなコップに水を入れてやるのだ。」と思っていました。私は、私の頭だけが濡れるのだろうかという感じがしていました。・・・とにかく、その日は夏の最も暑い日だったので、エアコンはまさに最稼動していました。私は300人の人で一杯の聖所に入り、他の受洗希望者が並んでいるのを見つけ、彼らに加わりました。最初に呼ばれた人は・・・私だった

のです！私は前に出て、時計をはずすように言われました。私は何故かと尋ね、無造作に止め金をはずしました。・・・すると時計は私の手の中で壊れて、下に落ちてしまいました。私は怒り始めました！そこでおどり場へ案内され、数段階を上ると、なんと、プールがあったのです！私は戻ることはまずできないし、しかし、決して入りたくなかったのです。私には計り知れない理由によって、私は入り、イエスの名前によってバプテスマを受けました(使徒2:38)。私は、ゆげが私の周りから上がらないので驚き、怒りました。しかし、従ったのです。私が出たら、次は順子でした。私は彼女を待ちました。彼女が出てきて、私に加わった時、大きな人が来て、「息子よ、待ちなさい。主からあなたに言葉があると信じます。」と言いました。私は何の事やら全くわかりませんでした。6、7人の人が前に呼ばれ、順子と私について話し始めました。ある人は、「息子よ、今まで私はあなたを守って来た。」他の人は「娘よ、あなたは癒しと新しい命でおおわれるであろう。」と。他の者は、「心配するな。あなたを神に開け渡せ。」と。「あなたは新しい命の中を歩み、あなたが欲していた事すべてが現実となるであろう。」「主にあつて喜び、主があなたを愛しておられるから。」20分余りも、彼らは私達の為に祈り、預言しました。私はまだ怒っており、とても寒く、そこから出たくてしかたがありませんでした。礼拝が終わってから、車の中で、私は順子に「あそこへは二度と行くつもりはない。」と言いました。彼女は「いいわよ。」と言いました。しかし私は次の日曜に行きました。次の水曜の家庭集会も行きました。そして、金曜のクリスチャンの土台のクラスにも行きました。私は引き寄せられていました。順子や他の人々によってではなく、真理と、現実と正直な交わりと、罪からの自由によって。外見上は、私は自分の過去の人生にしがみつこうとしていましたが、内面では新しい命が始まっていました。2、3週間たつと、私は教会で始まったばかりの、新しい務めの為の訓練学校に加わるように招かれました。彼らは確かに、私が自分に対して持っていた信仰以上に、私を信じていました。この間中、順子は相変わらず病気でしたが、彼女の状態は安定しました。不幸な事に、私の状態はそうではありませんでした。私はまだ仕事がありませんでしたが、日本にいた頃の少ない現金を持っていました。そこで、私達はローンを借りて、ショッピングモールに日本のファーストフードのレストランを始める事に決心しました。私達は狂ったように働き、良くやりました、が、そのモールは人気になかった為に、一年以内で失業してしまいました。私達はすべてを失いました。その上、私は賃借の履行を怠った為に、50万ドルの負債を持ち、12人の売主が私達を激しく追跡しました。ある友人が、日雇いで建築の仕事をくれたりしましたが、私達の借金を埋めるには十分ではありませんでした。このような最中に、ある老夫婦の夕食に招待されました。順子はまだ特別の食事制限中で、赤い肉と酪農製品を食べるといまだに彼女は具合が悪くなくなっていました。私達は人々がこの事情を知っているかと思いましたが、ショックな事に、ベーコンののったサラダと大きなローストハムが私達の前に出されていました。順子は私を見て、どうしようかと尋ねました。理由は分かりませんが、私はいいから食べなさいと言いました。彼女はその通りにし、おいしいと言ったのです！

私達は逆戻りをするのではと恐れて帰宅しましたが、彼女は翌朝、大変良い気分が目覚めました。そしてまもなく、彼女は生理不順の為に医者へ行かねば、と私に言いました。私達は友人に薦められた医者へ行きました。医者は私達を彼のオフィスに呼び、「おめでとうございます。実は妊娠しています。」と言いました。私は、「シルバーステイン先生、順子はまる2年間、頸部の癌にかかっていた。そんな事が可能でしょうか？」と言いました。彼は私を見て、「そうですね、それでは話にならないですね。彼女が妊娠するはずはない。」と言い、生検をとり、再び、その結果を聞きに来るように、と言いました。私は順子の医学記録、エックス線撮影、診断と薬を持って行きました。彼はすべてを見、言いました。「これらは何かの間違いに違いない。それらは典型的な癌のケースを示しているが、私のテストはすべて陰性だ。さらに、あなたの奥さんが癌であった証拠はない。いかなる傷跡組織も何も、証拠もない。彼女は明らかに大変健康であり、本当に妊娠しています。」

ナオミはその翌春に産まれました。大変健康な奇蹟の赤ちゃんでした。初めての妊娠期間を一緒に通っている間、私達の経済はまだひどい状態でした。私達は12月24日までにアパートを立ち退くようにとの注意を受けました。幸いな事に、ペンシルベニア州では、一家の誰かが妊娠している場合は強制的に追い出せない事となっていた為に、私達は2月までの事が出来ました。その時、ある教会の友人が引っ越す事となりました。彼らはある親切な未亡人から小さな家を借りていました。そこは大変家賃が安く、その女家主は敷金をなしにしてくれました。それから数年間、家賃が遅れた時でさえ彼女は大変理解してくれました。私は大工となり、何でも来る仕事はしました。ナオミが生まれてからも、まだ借金

取りがどんどんとドアをたたきました。保安官さえ来て、私達のすべての所有物をオークションに差し押さえようとしていました。(2度も!)しかし、最悪の時に、日本語の通訳者としての仕事が天から授かりました。レストランをやっていた時の知人を通して、私は鉄製品を製造する会社に紹介されました。その会社は、日本の共同経営者から派遣された技術者と会話するのを助けてほしかったのでした。私は最初、ほんの2、3日頼まれました。が結局2週間あまりに伸びました。私の給料は大工をして稼いでいた時の3倍以上でした。お金で保安官をなだめる事もできました。その後、私は日本語のテレビ会社から通訳を頼まれました。ピッツバーグにあり、臓器移植の話をする為でした。工学と医学はたまたま両方とも私の趣味の分野であり、良い仕事ことができました。大工、塗装や、電気技師、配管工に戻り、私達は再び借金取りに囲まれました。これらすべてが起こっている間、私は9ヶ月のクリスチャンの土台のコースを終え、続いて務めの為の訓練課程に進みました。私はピッツバーグの北地区にあるホームレスの人々の為の伝道会で福音を伝え始めました。しばしば、その伝道会に来た人達の方が私よりも財布に沢山お金を持っていたのは滑稽でした。私達のお金がよく底を尽きた度ごとに、その最後の一分間に(時には最後の一分を過ぎてから)日本語の通訳者を必要とする誰かから電話がありました。鉄製品の会社の副社長はルーテル教会の長老で、オハイオ州へ通勤している間、車の中で私と数時間、イエスについて語りました。彼は私の信仰に大きな影響を与えました。少しずつ、私達は負債を支払い、三年後には、モールの地主からの大きな判決を除いては、ほとんどすべてを支払い終わりました。私は務めの為の訓練課程を卒業し、教会で土台のクラスを教えていました。順子は健康で、ナオミは普通の、しかしわんぱくな幼児でした。私達は1986年の初めに教会の特別集会に出席していました。と、その日招かれていた説教者の内の一人が、順子と私について、日本へ戻り、そこで主に仕える、と語りました。順子は私達の教会の「家族」を離れたくはありませんでした。しかし私は、その時である、と分かりました。私達はその事について祈り、行くべきである事を二人で分かりました。が、いまだ一文なしでした。これについて、私は、神が私達に、経済的にサポートされてではなく、信仰によって出て行ってほしい事を感じました。私は日本に住む為のビザの申請をし、9月には、30日以内に東京に到着する事、でなければ私のビザは没収されるでしょう、という通知を受けました。かなり多くの奇蹟を通し、私達はすべての負債(その大きな一つ以外は)を支払い、航空費に充分なお金がありました。(注:その最後の残った負債は、モールの地主によって招かれた、失われた収益と被害に対してのものでした。私達が立ち退かせられた2年後に、彼らは別のテナントを見つけ、それにより、私達の負債部分は無効にすべきという事になるのですが、すでに判決は与えられていたのです。私は判決を変えるために、裁判に訴える必要があったでしょうが、しかし、それはお金もかかる事でしょう。私達はしばらくの間何も言われませんでした。そこで、地主があきらめたと仮定して、私達はその件をそのままにしました。私達が日本へ帰って4年後に、私達は書留の手紙を受け取りました。それは私達が、利子を含めてほぼ800000ドルのお金をいまだに借りている、というものでした。私達はピッツバーグにいる弁護士の友人と連絡をとり、彼女は、私達のために調査をしました。彼女は、時効がほとんど終わりかけていたために、我々から金を手に入れようと、最後の試みをしたものであると分かりました。私達はじっとしているように言われ、そのようにしました。そして後で、私達はその負債から完全に自由となった事、また、前の地主が巨額な税金を帳消しにする為にそれを使った、と言う事を知らされました。)私達は現金で1000ドル足らずを持って日本へ来ました。これは長く持つ事はなく、しかし主は忠実に、順子にも私にも英語を教える仕事を与えて下さいました。私達は数ヶ月間、東京のある教会へ行きましたが、私達自身の教会を始めようとの聖霊の導きを感じました。これは全く私の計画ではありませんでした!私達は私達の居間で集会を持つ事をもって始めました。丁度この頃、プリシーラが産まれました。順子は私達が日本へ来る準備の間中、妊娠していました!プリシーラが産まれてすぐ、私達はある自動車車体工場の上階に部屋を借りる事ができました。私達は最初の教会礼拝をそこで1987年のイースターの日曜日に持ちました。一年後に私達は順子の父から借りた古いまき小屋に移りました。それはとても寂れていましたが、私達はきれいに掃除し、神を褒め称えました。この時まで、私達の教会には20から25人の聖徒がいました。1992年、どう猛な台風が横浜に打撃を与えました。それにより、建物の土台の角が洗い流されてしまいました。建物全体の構造が傾いていました!修理する事は高くつくでしょう、そしてすでに屋根は雨漏りしており、壁には錆びた穴がありました。私達は答えを求め、新しい建物を建てるべきである、と信じた。銀行にお金は全くありませんでしたが、負債もありませんでした。教会の誰も建築の経験はありませんでした。実際、誰も金槌の頭と先のどちらがどちらかさえ分かりませんでした。

私はピッツバーグの私の牧師に、母教会からボランティアを頼む事ができるかと尋ね、彼は同意しました。私は銀行へ行き、アメリカから建築資材を輸入し、ボランティア労働で建築するのに十分な資金を貸りる事について、銀行から同意を得ました。私のかつての上司(とは言っても同じ年ですが)、数人の長老、執事、アツシャアそして牧師の息子さえ、喜んで来てくれる事となりました！ これらの人達は休暇を返上して来てくれました。また、何人かは自分で航空代をも払ってくれました。私の上司の奥さんまで、内装を助ける為に来てくれました。私達は約3000sq.ftの三階建ての建物をつくりました。一階の聖域は約100人を収容する事ができます。私達は年に数回、クリスマス、復活祭、恒例となった学校の劇等の際には、すべてのいすを使います。学校の話に戻りますと・・・初めから私達は自分の娘達をホームスクーリングしていました。しかし、およそ8年前、教会全体で私達自身の学校を始める事を決心しました。それは完全に私達の教会の一部であり、すべての先生はボランティアです。私はひやかし半分です。言うのですが、もしあなたの子供が学校にいるならば、あなたは協力を要求されるという事です。小学校入学前の学年から高校まで教えています。また、上の子供達は年下の子供達を教えたりもします。ほとんどが英語で教える為、ほとんどの親もまた英語を学ばざるを得ません。私達の第一の学科は尊敬、コミュニケーション、そして愛です。次に重きをおいているのは音楽と美術です。すべての子供達は基本的なコンピューターの技術を学びます。最後に、私達は数学と科学を常識として教えます。私達は「学究的な事」をほとんど強調しませんが、私達の子供達の才能を測る実力テストは平均をはるかに超え、成績も常に優や秀です。

悲しい事に、約4年前、私達はピッツバーグにいる私の牧師との関係から解かれました。これは長い話となりますが、短く言うと、彼は、私達の霊的な必要を無視し、私達の上に聖書に基づかない権威を行使し始めたのです。私は本当に彼が最善を意図していたと信じています。しかし、彼自身の教会内に起こったいくつかの問題が、秩序と恵みのバランスにあって不安定をもたらしました。彼の教会の聖徒の数人は、かなり窮屈ないくつかの規則に関して、ある程度柔軟であるようにと求めました。彼らは結局は、仲間である事から破門されました。(つまり完全に切り離されたのです！)私は、その模倣をするように、これらの人々(約100人！)と接触を持たないように、と命令されました。しかし、彼らの多くは、道理になかった質問を持った忠実な聖徒でした。私はその状態を省みる機会を求めましたが、利敵行為として不正に訴えられました。さらには暴動の首謀者としてです！私は聴衆の前で語らせてもらいたいと私の牧師にアピールしましたが、彼は断固として譲りませんでした。もし私がこれらの人々と関係を切らなければ、そして、完全に私自身と私の教会を彼の権威と規則のもとにゆだねなければ、私もまた破門されるでしょう。それでも私は、聖書に基づく証人もいないまま、これらの人々の救いを否定するような事はできませんでした。また私の群れを、地球の半分も離れていて、日本の事をほとんど知らない誰かの手の元に完全に置くことはできませんでした。そこで、彼は私に、私達が異教徒であり、破門された、という注意書きを送ってきました。率直に言って、それはひどく聞こえます。が、私達にとっては神の恵みでした。私達はエスカレートしてくる統制とかたくなさを感じ、ますます居心地が悪くなっていたからです。アメリカで重要である多くの事は日本では取るに足りない事です。日本では私達は、忠実なクリスチャンが0.1%以下の社会で苦闘しています。アメリカ(あるいは他のどこか)から来た多くの歌、説教、また教えは、私達がここで生活している人生とはかみ合いません。そして実際、神に対する人工的な信仰を創り上げてしまう事となり、聖霊の動きの息を止めてしまいます。今こそ、主がここで私達の為に備えてくださった恵みの深みへと自由に探求する時です。私達は人の偏見と教義の縄目から解放され、キリストの御からだの表れである、各地方教会のために取り分けられている祝福の場所へと入って行くのです。私は今でも私の牧師の為に、また私達と音信不通になった多くの聖徒と友人の為に、友好と分かち合い、そして愛の修復を祈っています。

二年前に、ナオミは、ハワイ大学の拡張である、カピオラニコミュニティカレッジで勉強する為にホノルルへ行きました。彼女は最初の年は佐藤英梨とそこで共に暮らし、最後の年には竹原望美が彼女らに加わりました。全員、私達の教会の学校の卒業生です。私達は彼女らを伝道者の書4:12から「三つよりの糸」(簡単に崩れない)と呼んでいます。主が彼女らと共におられる為に、実際には「四つよりの糸！」なのです。ナオミは「情報技術」を勉強しており、この5月に科学の準学士として卒業します。彼女は「新しいメディア芸術」、こちらは技術的科学の準学士としてのもう一つの学位を学究するつもりで

す。これらの2つの分野は大変最新のもので、コンピューターのハードウェア、アプリケーションとソフトウェア・プログラミングについて、沢山実地の経験をするでしょう。彼女がカピオラニを選んだのは、優れた教師と卒業後の就業率が高い為です。彼女は学校で良くやっているだけでなく、それ以上に、一つの良い地方教会で、信仰をもって熱心に仕えています。彼女は教会の務めだけではなく、大学での伝道にあっても大変行動的です。3人の娘達は、異邦人と聖徒達の間にあつてすばらしい評判を得ています。主を褒め称えます！

現在私達は、私達の教会の建物を修復している真っ最中です。教会は10年経っており、当初は経済的に、しかし、将来のアップグレードを考慮に入れて構築されました。神は、それらのアップグレードを実施する時であることを明らかにして、そして彼の意志を成し遂げるために私達に経済と手段を与え、祝福しました。私達は、ガレージの上に部屋を加えています。その部屋は備品収納室へ隣接し、備品収納室はまた洗礼槽の上階部分となります(洗礼槽は、現在は室外で、講壇のすぐ後ろの位置で建物にくっついてます)。私達はまた、古い金属の外壁板を取り外すつもりです。それは実用的ですが、余り美しくはありません。それを、オーストラリアからの現代的な「繊維コンクリート」の外壁板に替え、板が水平に重なるように張っていくつもりです。最後に、私達は教会の正面、外側に十字架を建てたいのです。しばらくの間、私達が求めていた事です。このすべてはアメリカの教会からのボランティアの協力により成し遂げられるでしょう。5つの州からの聖徒達が献身し、来てくれる事になっています。何人かは自分で交通費を出してまで！ 私達は神の教会を建てる為に共に働く間、すばらしい友好の時となる事を待ち望んでいます。

私は、クリスチャンになって21年、ここ日本に戻って16年が過ぎました。私は祝福されています！私自身の子供達は水の洗礼を受け、神に仕えています。この地方教会の交わりの中にある他の聖徒達も、同様の証で一杯です。私は今46歳、私の救い主にとっても満足しています。そして、これから先も来るだろう冒険の数々を待ち望んでいます。

(証終了)